

土砂災害にっし

炬明幸中学校 三年 中村 海斗

近年では、今までの規模を越える

集中豪雨や台風などに、工砂災害が各地で

発生している。記憶に新しいもの、平成

二十九年七月五日から六日にかけ発生し

福岡県と大分県を中心に集中豪雨がおき、

朝倉市の住宅地におき、大規模な工砂災害

がみよ。最終的に、二の工砂災害に

被災地域の死者は五十六名、重軽傷者は二十

一名にも上り、豪雨全体では百七十五棟が全

壊し、約八百五十近くの家屋が

損壊し、約千八百棟以上の浸水の被害を受け

た。このこと、集中豪雨や工砂災害などの自然

災害はとて、恐ろしいもの、ということ、

かりました。

僕たちの暮らし、福岡県では、

工砂災害などの自然災害が、

平成十六年の七月に発生し

た。福井豪雨に、被害がみよ。福井豪

害は確かに人命が甚く甚つた。りし。りと。て	と言つて。い。ま。し。た。の。そ。の。を。聞。い。た。と。き。、	中。に。ま。で。泥。水。が。入。つ。て。く。る。ひ。ん。と。て。大。き	ひ。笑。害。だ。と。い。う。だ。ひ。と。思。い。ま。し。た。お。ほ。み。ち	や。ん。は。さ。ら。に。-	「泥水と外に出して。い。る。と。き。、	威の人達。が。作。業。を。手。伝。つ。て。く。ら。い。か。ら。と。て	助。か。つ。た。の。	と。い。言。つ。て。い。ま。し。た。の。そ。の。を。聞。い。た。と。き。に。災	可。作。業。が。一。日。中。続。い。て。と。て。大。変。だ。と。い。ふ。の。	入。つ。て。き。つ。て。泥。水。を。ス。コ。ッ。と。い。う。と。外。に。出	「福井豪雨。の。と。き。は。家。の。中。に。泥。水。が。た。く。さ。ん	す。お。ほ。み。ち。や。ん。は。	災。害。に。あ。つ。た。の。か。と。思。い。、。と。て。こ。ろ。か。つ。た。の。	合。が。暮。ら。し。て。い。る。所。が。昔。は。こ。ん。が。豪。雨。や。工。砂	たり。する。こ。と。が。出。来。ま。し。た。の。そ。の。と。き。は。自	幸。地。区。の。大。き。な。被。害。の。記。録。映。像。の。と。見	とお。じ。い。ち。や。ん。に。聞。い。た。り。、。美。山。地。区。や。津。教	覚。え。て。み。い。け。ど。福。井。豪。雨。の。話。を。お。ほ。み。ち。や。ん	雨。が。発。生。し。て。い。た。当。時。、。僕。は。一。歳。だ。と。い。う。の。
-----------------------	----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------	---------------------	------------------------------------	------------	---	--	---------------------------------------	-------------------------------------	------------------	--	---	-------------------------------------	-----------------------------------	--	---	--

危険だけれど一人一人が助け合う力を高
め、被害にあわないか、被災は近く、被害に
あつた人達を助けに行つたり、遠く地域の
人達は募金活動に積極的に参加したり、見
て人と人が助け合つたり、以上の人々と
るからです。災害が来るとき以上の人と
が助け合う様子を見るとき、大事なことだ
ろと思ひます。

工 砂 災 害 予 防 の 自 然 災 害 か ら 身 を 守 る 方 法

に、僕の町では毎年防災訓練が行われ
ます。その防災訓練は、最初に災害を知らせ
るサイレンが鳴り、指定された公園に集まり
ます。人員を点呼をし、逃げ遅れた人がい
ないかを確認します。特に一人暮らしの高
齢者や体の不自由な人達が逃げ遅れな
いように注意して確認します。その後、火災
国子、避難場所の学校に行きます。
僕はその町では、災害に備え、倉庫が
あります。その中には、土のろやスコップ
や

る	は	命	今	り	か	れ	本	年	7	は	ら	し	と	、	こ	だ	し	料	備
は	か	が	回	と	ら	に	当	行	己	ら	ら	て	が	、	と	は	を	え	え
か	ら	簡	の	防	で	防	に	わ	低	に	、	。現	、	今	自	に	常	て	お
に	で	単	作	災	す	災	起	け	か	起	、	在	然	回	然	は	備	お	く
已	す	に	文	訓	。し	訓	こ	る	、	こ	、	か	災	の	災	に	し	と	こ
対	ひ	は	を	釋	か	を	る	防	7	ら	、	ら	害	に	害	は	ど	と	と
策	の	は	書	を	し	行	ら	災	ひ	ひ	思	昔	ど	は	の	と	二	も	と
や	で	く	く	行	、	え	は	訓	と	い	の	自	の	自	然	7	に	大	切
訓	、	、	に	お	次	ひ	は	釋	い	ま	分	然	出	然	災	己	切	で	可
釋	災	7	み	う	か	か	は	に	す	を	を	災	ま	害	は	か	例	え	ほ
は	害	し	り	と	ら	、	思	は	。町	振	振	害	せ	は	、	己	え	ほ	、
必	か	子	、	思	は	と	っ	参	内	り	か	い	の	起	家	は	ほ	、	水
要	ら	ろ	自	い	子	二	7	加	や	返	防	7	ど	す	族	全	ほ	、	食
7	自	の	然	ま	じ	三	い	日	学	り	災	、	、	。	全	員	ほ	、	水
と	分	改	災	す	女	が	7	了	校	理	対	、	、	。	員	が	ほ	、	食
思	の	め	害	ひ	に	み	、	の	で	解	策	、	、	。	が	把	ほ	、	食
い	身	7	は	せ	し	、	ま	の	、	出	が	、	、	。	把	握	ほ	、	食
子	を	知	人	ひ	、	、	じ	の	毎	ま	と	、	、	。	握	。	ほ	、	食
可	守	っ	の	ら	か	は	じ	、		み	と	、	、	。			ほ	、	食